



③「実行力」

自分が立てた目標の意味を自覚するとともに、目標を実現するための戦略を考え、揺るぎない意志に基づき、それを確実に実行していく力。

(i) 「自己管理能力」を身に付け、あたり前のことをあたり前にできる人間に

素晴らしい「ビジョン」を思い描き、そのプロセスが完璧に「想像」できたとしても、そのプロセスを実行できなければ何も成しえません。

「実行力」を身に付けるためには、「自己管理能力」を身に付ける必要があります。東桜学館生であれば、「自己管理能力」や「凡事徹底」といった言葉は聞いたことがあるでしょう。計画倒れになってしまう大きな原因は、基本的な生活習慣が確立していなかったり、あたり前のことをあたり前にできていなかったりする人が多いと思います。

中学校1年生の1学期、高校1年生の1学期が、よい習慣を身に付ける、自己管理能力を高めるには、最も適した時期です。また、年度のはじめや新年なども節目としてはいいタイミングです。しかし、やろうと思えば、この瞬間でも可能なはずです。基本的な生活習慣などの「自己管理能力」をしっかりと身に付け、あたり前のことをあたり前にできる人間になりましょう。

1 規則正しい生活をする

朝きちんと起きる、朝ごはんを食べる、遅刻をしない、服装を正す、睡眠をきちんととるなど

2 挨拶をする

3 授業に集中する

4 掃除をする ゴミを拾う

5 学校行事に積極的に参加する

6 部活動をやり遂げる

7 SNS やゲームに依存しない など

(ii) 「プランド・ハプンスタンス (計画的偶発性理論)」実現へ必要な5つの行動指針を身に付けよう

キャリア理論の中には、「キャリアの8割は偶然によって決定される」という理論があります。「計画された偶発性理論 (Planned Happenstance Theory プランド・ハプンスタンス)」と呼ばれるこの理論は、スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授が20世紀末に提案したキャリア理論です。

この理論の要点は、

- ・個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される
- ・その偶発的なことを計画的に導くことでキャリアアップをしていくべきという考えにあります。

そのためには、予期しない出来事をただ待つだけでなく、自ら創り出せるように積極的に行動したり、周囲の出来事に神経を研ぎ澄ませたりして、偶然を意図的・計画的にステップアップの機会へと変えていくべきだと言われています。

そして、次の5つの行動指針を持つことが大事だと指摘しています。

《ブランド・ハプンスタンス（計画的偶発性理論）実現へ必要な5つの行動指針》

- 1「好奇心」：絶えず新しい学習の機会を模索し続けること
- 2「持続性」：失敗に屈せず、努力し続けること
- 3「楽観性」：新しい機会は必ず実現する、可能になるとポジティブに考えること
- 4「柔軟性」：こだわりを捨て、信念、概念、態度、行動を変えること
- 5「冒険心」：結果が不確実でも、リスクを取って行動を起こすこと

機械やコンピュータは、故障やトラブルがない限り、設定した指示に従い、24時間、一定の効率で作業することが可能です。人間はそうはいきません。つまり、実行するためには目的や目標が必要であり、コンスタントに実行していくためにはさらに、継続を可能にするマインドが必要です。

先に挙げた5つの内容は、実は「実行力」を高めるためのマインドとして、さらに言えば、人生を豊かに生きていくためにも大切だと思います。

「好奇心」や「冒険心」、「柔軟性」を持って物事にあたり、たとえ多少の失敗があっても「楽観性」をもって常にポジティブに考え、「持続性」を持ち続けること。

是非、思い描いた素晴らしい「ビジョン」を成し遂げるために、そのプロセスをイメージしながら実行できる人に少しずつ成長していったほしいものです。

令和元年（2019年）12月

計画された偶発性理論

「計画された偶発性理論 (Planned Happenstance Theory)」とは、米国スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授が 20 世紀末に提唱したキャリア理論。「個人のキャリアの 8 割は予想しない偶発的なことによって決定される」とし、その予期せぬ偶然の出来事にベストを尽くして対応する経験の積み重ねで、よりよいキャリアが形成されるという考え方です。

対比されるキャリア理論には、自分の適性などを見出した上で、あらかじめ設定したキャリアゴールを目指してキャリアを積んでいく「キャリアアンカー理論」があります。計画された偶発性理論が生まれた背景には、このような、自分のキャリアは自分で意図して職歴を積み上げ、形成するものであるとするそれまでのキャリア理論が時代に合わなくなってきたということがあります。

ビジネス環境の変化が現在ほど激しくなく、10 年後の状況がどうなっているかといったことも予想しやすかった時代には、自分の適性や能力、やりたいことなどを分析すれば、目指すべきキャリアゴールや、そこに到達するためにたどるべき道筋が比較的たやすく導き出されました。

しかし、変化のスピードが非常に早く、将来何が起きるかが誰にも見通せない時代になると、キャリアをあらかじめ計画し、その計画通りに進もうとすることは現実的ではありません。キャリアゴールを一つに固定しても、それが将来も素晴らしいゴールであるとは限らず、ほかにもあったはずの可能性を失うことになってしまいます。

そこで、計画された偶発性理論では、キャリアを形成していく上では何が起きるかわからないことを前提に、予期せぬ偶然の出来事によってキャリアが決定されると考え、その出来事を積極的に引き寄せてステップアップの機会を創出していこうとします。そのために大切なこととして、クランボルツ教授は、好奇心を持って新しい学習機会を模索し、失敗に屈せず努力し続けることや、新しい機会が必ず実現すると楽観的に捉えること、また、考えや行動をフレキシブルに変え、結果が不確実でもリスクを取って行動することを挙げています。

計画された偶発性理論が示すのは、偶然を自分自身でチャンスに変える積極性の大切さ。企業のキャリア教育においても、こうした考え方を示唆することは今後ますます重要になってくるでしょう。